

# 転校生なギャル JK はダークエルフ！？ 3 章幕間

癒し庵もち猫 クアトロ

## 9-2:約束

と言う訳で、明日もナナリーの家へ行く事になった。

正確には待ち合わせするだけだが。

しかし、何でもグイグイ来るんだ。

ナナリーは調査のため、と言っているが、本当にそうなのだろうか？

僕の秘密？

そんな隙、見せるはずがない。

何せバレたら、これまでの計画が水泡に帰す。

それだけは避けたい。

だが僕を調べたいと言うなら、好きなだけ調べればいい。

どうせ見つかりっこない。

そう思っていた。

“あの時までは”

## 9-3:明日の予定

帰宅後、僕はボーっと考え事をしていた。

明日のデートについてだ。

彼女の勢いにつられて、つい OK を出してしまった。

どうやら観てみたい映画があるらしい。

と言うか、映画自体初めてだと言っていた。

あの巨大なスクリーンで動く映像を観たら、また魔法だーとか言い出すだろうな。

そう思うと微笑ましくも思える。

明日の朝 9 時、彼女の家の前で待ち合わせ。

そこから徒歩で映画館へ。

上映時間は予め調べておいた。

ちょうど着く頃に入場が始まる予定だ。

抜かりはない。

上映を逃して、彼女に退屈な思いをさせてはいけない。

そうこう考えている内に、強烈な眠気に襲われた。

ウトウトとして舟を漕ぎ、机で頭を打ちそうになる。

いけない、ベッドに行かなくては。

朦朧とする意識の中、僕は何とかベッドまで辿り着く。

そのまま倒れ込む様にベッドに横たわり、天を仰いだ。

彼女の部屋に長く居たせいだろうか。

独特の甘い香りが服に残っている。

いい香りだ。

彼女に膝枕をしてもらえば、この匂いを嗅ぎ放題だ。

だから今日も耳かき棒を前もって用意していた。

引かれてしまったが、それくらいどうという事はない。

興味は惹けたはずだ。

何でこんなに必死になっているんだろう。

駄目だ。

思考がおぼつかない。

少し早いけど、今日はもう寝よう。

明日のデートに備え、僕は眠りについた。